

2024年12月のNO₂(二酸化窒素)測定結果

東都生協では「身近なところの空気を実際に測って確かめ、きれいな空気を取り戻すにはどうすればよいのか」を考えることを目的に1988年からNO₂(二酸化窒素)測定活動を実施しています。

測定結果を「大気汚染測定運動東京連絡会※」に提供しています。同会では生協のほか、さまざまな団体から集めた測定結果を基に、大気汚染の改善を求めて運動を展開しています。毎回の地道な測定活動の積み重ねが大きな運動を支えています。

気象状況

測定日時 2024年12月5日(木)午後6時～12月6日(金)午後6時
※前後2時間を有効とする
天候 12月5日(晴れ) 平均風速：1.7m/S
12月6日(晴れ) 平均風速：2.4m/S

測定規模

・参加人数：158人
・カプセル配付数：169個
・カプセルの返却数と回収率：156個(92.3%)
・有効とした測定数と回収率：126個(74.6%)

測定結果

今回の全体平均濃度は、0.021ppmでした。過去5年間に測定した12月の平均濃度(0.018ppm)との比較では高い値になります。

都内の大気汚染常設監視測定局が測定したNO₂平均濃度は、道路沿いが0.026ppm、住宅地は0.020ppmでした。

なお、環境省が定めた基準値は「0.040～0.060ppmのゾーン、またはそれ以下であること」とされています。

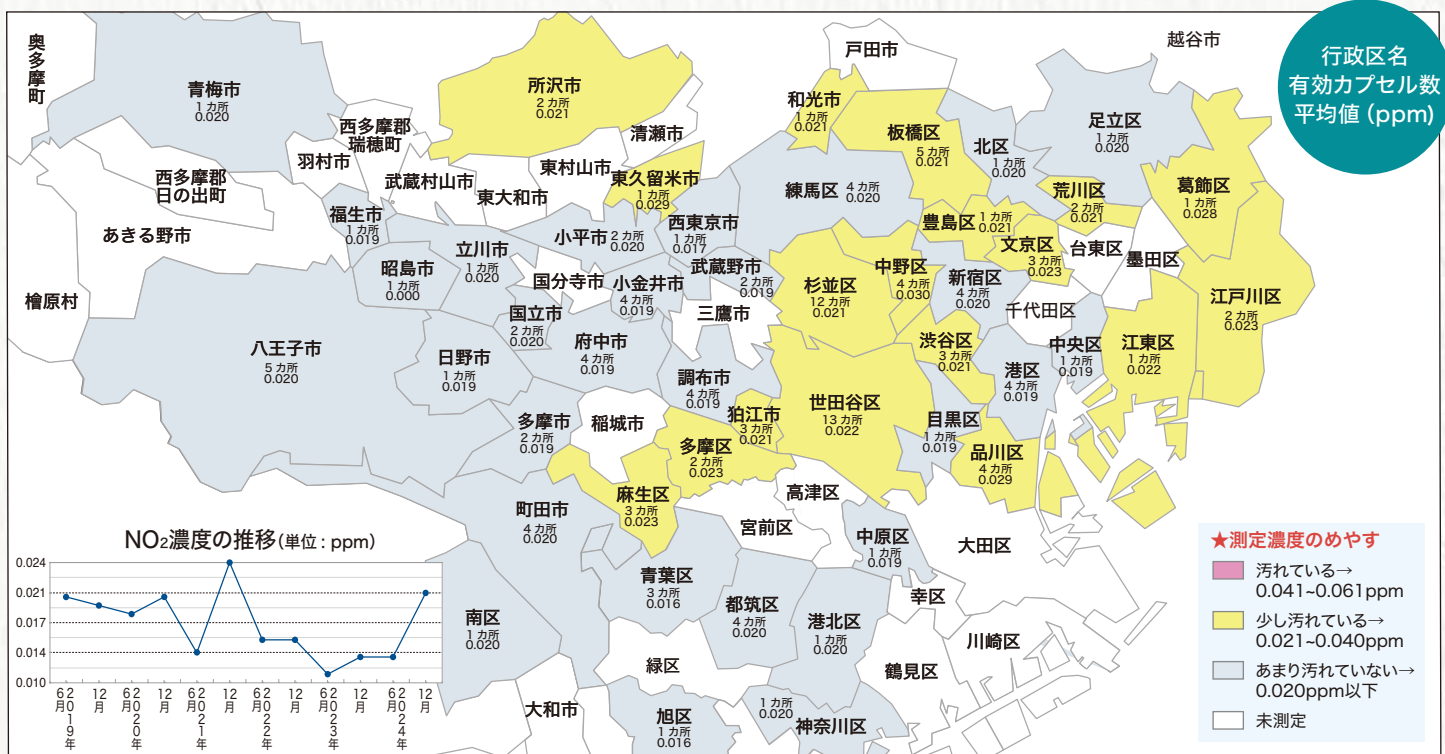
地域別の測定結果

測定地域	測定結果	前年実績
全体平均	0.021	0.011
東京23区	0.022	0.012
東京多摩地域	0.019	0.011
神奈川県	0.020	0.011
埼玉県	0.021	0.011

大気汚染測定運動東京連絡会

大気汚染測定運動に参加する各地域実行委員や団体の自主的な活動を基盤とする連絡会です。

きれいな空気を取り戻し、健康と環境を守り、大気汚染による健康被害を防ぐことを目的に活動を進めています。東京連絡会全体で取りまとめた測定結果は、東京都や環境省に報告され有害物質の排出抑制を進めるための貴重なデータとして活用されています。



理事会報告(抜粋)

2024年度第9回定例理事会(2025年1月23日開催)

- 審議事項**
- 2025年度役員改選手続きに関する件(その2)
 - 2025年度役員選挙における委員委嘱の件
 - 全国制度「生協役員賠償責任保険」加入申し込みの件
 - 土づくり基金規程、細則、要領の廃止と関連規程の一部改正の件

- 報告事項**
- 2024年12月度決算報告
 - 各部署業務報告
 - 組合員活動委員会報告
 - 商品関連活動報告
 - 理事懇談会開催の件
 - 常任理事会決議事項報告

今後の理事会日程(予定)
・5月20日(火)

<12月の私たち>

2024年12月20日現在 ※[]内は前年比		
組合員数	262,645人	[101.1%]
加入	11,861人	[124.4%]
脱退	9,716人	[162.7%]
総事業高	25,566,024千円	[101.1%]
共同購入事業	24,491,585千円	
弁当配食事業	306,236千円	
生活文化事業	175,456千円	
生活支援事業	61,083千円	
その他事業	531,665千円	
出資金	6,568,891千円	[98.1%]
1人当たりの出資金	25,011円	[97.0%]
1人当たりの利用高	6,301円	[102.0%]

分散会では活発に意見を出し合いました



第1回総代会議

活発な意見交換が交わされました

開催日：2024年11月22日 主催：理事会

2024年度の総代550人を対象に11月22日からの5日間にわたり8つの会場で行われました。

総代会議は、東都生協の運営や組合員活動に対して総代が意見を出す場で、6月の通常総代会で決めた方針に基づき2024年度上半期の運営・活動について意見交換が交わされました。

全体会での質疑の後、少人数のグループに分かれて活発に論議が交わされました。

「産地直結のための具体策」をテーマに、「組合員としてできること」「東都生協としてやるべきこと」を出し合い、付箋にそれぞれのアイデアを書いて模造紙に貼り付けるスタイルで行われました。

「産地のものを継続して買い支えられるよう注文を『登録』する」

「農家が生産を継続できる価格にすることが大事ではないか」との具体策をまとめたグループもありました。

「産地のものを継続して買い支えられるよう注文を『登録』する」

「農家が生産を継続できる価格にすることが大事ではないか」との具体策をまとめたグループもありました。

総代から出された意見は2025年度の運営方針づくりに生かされ、第2回総代会議での論議につなげていきます。

22日の会場は東京都農業会館。「新宿は出てきやすい。思ったより駅から近い」と好評でした。

前半は全体で質疑応答の時間



MOGMOGレポート

3・4 2025月号

report 01
10月28日

産地視察訪問
「農事組合法人 和郷園」

商品委員会

ベビリーフの有機栽培農場「わ～ふぁ道元」(千葉県香取市)の産地視察&学習交流に10人が参加しました。

地下水をくみ上げ、ろ過するシステムを導入し、安定的に水資源を確保。木くずや草を活用した腐葉土づくりが有機的な土壌改良につながり、天然由来の肥料や農薬を使用し、環境負荷の低減に努めている点などを確認しました。摘み取りは手作業であることを知り「食べるのはあつという間だが、こんなにも手の込んだ作業とは知らなかった」との感想がありました。

ここ2年、急激な気温変化とゲリラ豪雨などが深刻で、種のまき直し、生育遅れなど、異常な状況が起こっているそうです。産地の現状を直接見聞きすることで、生産者への理解を深め応援する気持ちが高まった視察となりました。



report 02
11月8日

子育て中に知っておきたい
「食品表示」の見方&
ワンプレートランチ会

第8地域委員会

商品のパッケージをひっくり返すと何やら細かい文字がいっぱい並ぶ「食品表示」。小さい子どもがいるとなおさら気になります。

食品添加物にはどのようなものが存在するの? そんな疑問に商品部の吉澤正義職員が答えてくれました。

原材料名には、食品に使用されている原材料と食品添加物が記載されていること、原材料が一番多く使われているものから順に記載されていることを教わり、いくつかの表示を見比べてみると、同じような商品でも価格の違いはここにあるのだと一目瞭然! それなりに訳があることに皆が納得するのでした。

その後の試食には東都生協のお勧め商品が並び、パッケージの食品表示を見ながら復習タイムに。参加者は、「食品表示、奥が深い」「改めて勉強になった」と大満足のようでした。



report 03
11月29日

沖縄の実情を丁寧に
記録したドキュメント
「戦雲(いくさふむ)」上映会

第1地域委員会・平和募金企画

この数年間でどんどん戦力配備が進む沖縄の島々。そこに暮らす人々の日常と想いを、8年間にわたって丁寧に取材したドキュメント映画です。2時間を超える作品を、江東区深川江戸資料館小劇場で115人が鑑賞しました。

「沖縄への問題意識はあったものの、本当のことはまるで知らなかった。がくぜんとしました」

50代の女性は赤く潤んだ目で語ってくれました。

「でも、まず知ることが始まりです。今見て知ったことを周りの人に伝え、広げていきたいと思います」

メディアで伝えられる沖縄の姿はほんの一部に過ぎない。それを痛感した上映会となりました。

